

[2] 中心市街地の概要

(1) 中心市街地の概況

本市の中心市街地は、17世紀初頭からの歴史を有し、J R 甲府駅（以下駅と記載）を中心として商業、業務、居住など多様な都市機能が集積し、多くの人やもの、情報が行き交う場として、独自の生活文化や伝統を育み、甲府市の中心市街地としてだけでなく、県都として圏域全体の発展に大きな役割を果たしてきた地域である。

特に、J R 中央本線、身延線などの鉄道や、路線バスなど多様な公共交通機関が結節し、甲府駅を中心として市役所や県庁及び法務局などの行政施設が立地しており、また、金融機関などの業務施設、百貨店や商店街などの商業施設、県立図書館などの文化施設など、多くの都市機能が徒歩圏内に集積していることに特徴がある。

(2) 中心市街地に蓄積されている既存ストック状況

①歴史的・文化的資源

武田氏の勢力伸張に伴い、甲府は領国統治の拠点として発展したが、信玄の子 勝頼の新府移転や武田氏滅亡を契機に、甲斐を領した徳川氏や豊臣系大名が甲斐を支配し、甲府城を築城して新たに甲府城下町が整備された。

近世を通じて甲府城下町が最も繁栄したのが柳沢氏の時代である。それまで甲府城主は徳川家一門に限られていたが、将軍綱吉の側近・柳沢吉保が甲斐を受封し城主となり、父子二代にわたって城下町の整備を積極的に進めた。

明治時代、1873年の廃城処分となった以降にも甲府は政治的・経済的中心地として機能し、甲府城は県庁主導の殖産興業政策において建物などの破却が行われ、内堀が埋め立てられて官業施設化される。さらに中央線（JR東日本中央本線）の開通と甲府駅（甲府城清水曲輪跡にあたる）の開業により城跡は分断されたが、戦後には城跡の発掘調査や史跡の整備が進み、現在は、本丸・天守曲輪及び天守台・稲荷曲輪・鍛冶曲輪の石垣、堀の一部が残り、武田氏居館とともに甲府駅周辺の観光地となっている。

県庁敷地内の中央部にある、県議会議事堂は昭和3年、県庁別館（旧本館）は昭和5年（1930）に建てられた建物で、昭和38年に現在の庁舎（新館）ができるまで、県庁舎の主要建物であった。旧本館は平成25年まで県教育委員会と県警察本部が主に使用しており、議事堂は現在も県議会の議場として使用されている。両建物ともに、鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、車寄せ柱や外壁腰部が塩山産の花崗岩、その上部は愛知県産の特殊タイルが貼り付けられており、窓はスチールサッシ、内壁と天井は漆喰塗、階段は大理石張りで重厚な造りである。

旧本館は地下1階地上3階建て、議事堂は地下1階地上2階建てで、屋根瓦の一部は、当時の県章（「山」の字を図案化したもの）が用いられている。また、庁舎を真上から見ると「山」の字形になっている。

これらが建てられる前の県庁舎は、甲府市役所の位置にあり、現在の県庁舎の場所には、甲府中学（現：甲府第一高校）があった。当時の県庁舎は、明治10（1877）年建設の藤村式の擬洋風建築物で、市役所建替地で行われていた発掘調査の際に、その基礎部分の一部が現出した。

旧本館の外観は、竣工当時とほとんど変わっていないため、旧陸軍司令本部などとして、映画やテレビドラマの撮影にたびたび使用されている。

②社会資本や産業資源

昭和20年7月甲府大空襲により、市街地の74%が焦土と化する大きな被害を受けたが、これを機に昭和22年特別都市計画法に基づく戦災復興土地区画整理事業に着手し、市の復興を図るとともに、近代都市建設に向かって都市基盤の整備を始めた。

その後、日本経済の高度経済成長期に入り、昭和46年3月中央線の複線化、昭和57年11月中央自動車道の全線開通等により、本市の産業経済活動はますます活性化し、内陸部の中核都市として着実に発展を遂げ、平成元年には全国38都市と共に市制100周年を迎えた。

[3] 統計的なデータ等による現状把握・分析

(1) 人口動態に関する状況

○人口は減少傾向にあったが近年は横ばいの傾向がみられる。

甲府市の中心市街地の人口推移をみると、人口及び甲府市域内シェアともに減少傾向にあったが、前計画策定年度の平成19年に初めて増加に転じ、その後は横ばいの傾向がみられる。

前計画策定年度の平成19年と比べ、平成25年では人口は5,767人から、5,611人へと156人(2.7%)減少、甲府市域シェアは横ばいとなっている。

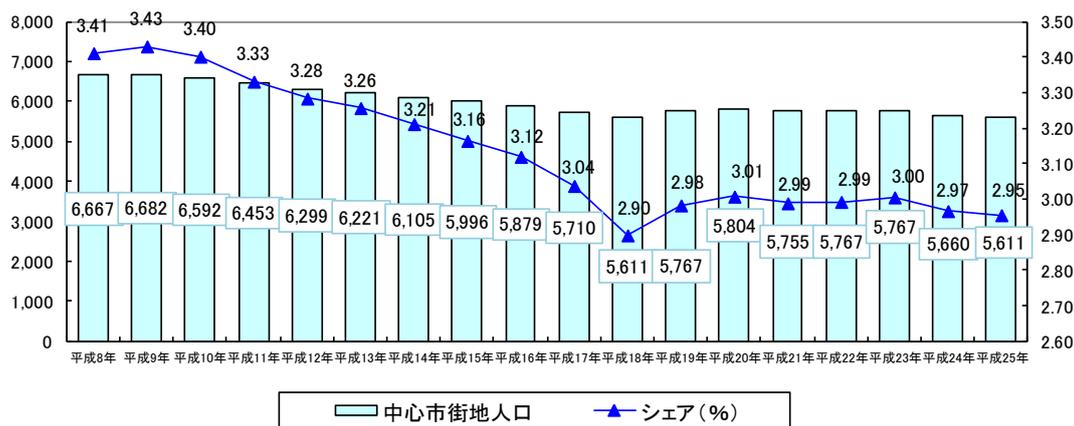


図 1-1 中心市街地人口の推移

資料:住民基本台帳

○少子高齢傾向

中心市街地では、甲府市全域と比較し、高齢化率が約6%高く、年少人口率が約4%低いことから、少子高齢化傾向が進行していることがうかがえる。

年齢階層比率 (65歳以上)

	H20.4.1	H21.4.1	H22.4.1	H23.4.1	H24.4.1	H25.4.1	H26.4.1
甲府市	24.3%	24.9%	25.3%	25.3%	25.8%	26.8%	27.5%
中心市街地	31.4%	32.0%	32.3%	31.9%	32.0%	33.1%	33.5%
差	7.2%	7.1%	7.1%	6.6%	6.2%	6.4%	6.0%

年齢階層比率 (15歳未満)

	H20.4.1	H21.4.1	H22.4.1	H23.4.1	H24.4.1	H25.4.1	H26.4.1
甲府市	13.4%	13.3%	13.2%	13.1%	13.0%	12.8%	12.8%
中心市街地	9.1%	9.1%	9.1%	8.8%	9.2%	9.1%	9.0%
差	-4.3%	-4.2%	-4.1%	-4.3%	-3.7%	-3.7%	-3.8%

表 1-1 年齢階層比較

資料:住民基本台帳